

令和6年2月24日(土)  
於 ミライエ長岡ミライエステップ

# 日本農業の現 状と課題 そして未来

認定特定非営利活動法人UNE  
代表理事 家老 洋

自ら食べる物は自ら作り調理する

# 日本農業の 現状と課題

1. 農業では生計が立てられない
2. 高齢化の進展と年金農業
3. 農業者の急激な減少
4. 耕作地の減少による自給率の低下
5. 円安による輸入農産物の高騰と量の激減
6. 異常気象による農業の継続性の危機
7. 食糧不足、食糧分配の不平等
8. 効率性を求めるが故の農産物の安全性
9. 健康被害、健康寿命の短縮
10. 農村コミュニティの崩壊

# 1. 農業では 生計が立て られない

・ 農家所得の低迷 農家の平均所得：年間114万円、月9万円余  
水田作で農業を始める場合の平均的な費用を見ましょう。

「営農類型別農業経営収支」の平均値から経営規模を225aと仮定  
します。

農業経営統計調査の結果によると、その規模の米の生産費は10a  
当たり約13万円です。13万円×22.5反（反=10a）で、生産費は全  
体で290万円ほどかかると推定できます。

つまり単身世帯の場合、180万円+290万円=470万円の農業収入  
があれば生活していけると考えられます。2人以上の世帯の場合は  
消費支出額がさらに増えるため、将来展望も含めたうえで必要な生  
活費を明確にしておきましょう。

つまり稲作だけで生計を立てるとした場合、470万円÷22.5反=  
20万8千円の売上が無ければ単身世帯での生活は出来ません。

令和5年度の生産者米価を15,291円となっていますので、反収  
13.6俵もの収量がないとやっていけません。

平均反収が563kgですので、平均9.4俵、4.2俵=64,222円の赤  
字が出るという結果です。

## 2. 高齢化の進展と年金農業

- 日本の基幹的農業従事者の平均年齢は、令和2年時点で67.8歳であり、65歳以上の割合は全体の70%を占めています。それから4年経った現在は70歳位になっているのではと推測されます。
- これまでの高齢者農家は年金を注ぎ込んで農業を維持・継続して来ました。

### 3. 農業者の急激な減少

- 高齢化の進展（年金百姓の激減）による農業従事者の激減

昭和52年550万人もいた農業従事者が、平成27年には175万人、令和2年には136万人、そして令和5年には100万人を割ってしまいました。

ここ数年これまで農業を担ってきた団塊の世代が一挙にリタイアしますので、あっと云う間に半減、そして3分の1になってしまうことは明白です。

## 4. 農業後継者が育たない

### • 農業教育の曖昧さ

現在、全国には約300校の農業高校があり、約7万3千人の生徒が学んでいます。この数は全国の高校生の約2.4%に当たります。

※新潟県の公立農業高校4校の定員総数は240人

農業高校の上の教育機関としては2年制の農業大学校が全国に47校、そして4年生の農学部のある大学は国立24校、私立30校の計54校もありますが???

令和4年の新規学卒就農者は（自営、法人就職）高校800人、農業大学校及び四大卒1,460人 計2,260人

内、実家が農家で農業を学んで、農家の継ぐ者は、高卒60人、農大・大卒併せて250人 計310人しかいません。

新規参入総数10,570人の内、農業を学んだ経験のある者は、2,260人で僅か21%しかありません。

## 4. 耕作地の減少による自給率の低下

- これまで担い手であった団塊の世代が一挙にリタイアすることで、条件不利の耕地は放棄され、これまでの生産は出来なくなります。
- これまで条件不利地域とされている中山間地域の農業は農業生産の4割を担ってきたと云われます。
- この中山間地域の農業が壊滅したならば、日本農業の生産は半分近くにまで減少することが予想されます。

## 5. 円安による輸入農産物の高騰と量の激減

- 最近、日本の人口の3分の2のドイツにGDPが追い越され、現在、米国、中国、そしてドイツに次いで日本は第4位になりました。
- 日本の生産性の低さが大きな要因とされており、加えて、政府が抱える1千兆円を超える世界一の借金が、日本の世界的地位を大きく落としています。
- 長期的に見た場合、日本の国力の低下により、今後も円安基調は続くと考えられ、食糧はじめ原料自給率の低い日本にとって円安による農産物の高騰は必至です。
- これまで「買い勝ち」していた魚類、果物などは、隣国の豊かになった国々に買い占められ、日本には入って来ないことが既に現れています。



## 6. 異常気象による農業の継続性の危機

- 今冬の暖冬、昨年夏の酷暑と異常気象が異常でなくなってしまった現在、これまで耕作されてきた農作物が作付け出来ないという現象がどんどん出てくるのが予想されます。
- 異常気象による国内農産物の安定供給が出来なくなれば、自給率はどんどん低下し、加えて、安定的な農業経営が出来なくなり、農業を担う人材はゼロになってしまうのでは？と心配しています。
- 中山間地では獣による農産物被害が多発しています。

## 7. 食糧不足、 食糧分配の 不平等

- 現在、テレビの中心はグルメや大食いの番組です。それにうつつをぬかし、現状を楽観視している日本を数年後、食糧危機が襲うことが予想されます。
- 加えて、食糧が高騰すれば、食糧分配の不平等が生じ、醜い食糧の奪い合いが生じることが予想されます。
- その時の勝者は、果たして  
金持ちか？  
自給自足している者か？

## 8. 効率性を求めるが故の農産物の安全性

- 効率性、生産性を求めるが故に安全性が確認されないままに健康、環境に影響を及ぼすような農薬の使用
- 遺伝子組換植物の栽培、畜産動物の飼育
- クローン畜産動物の飼育
- 安全性が疑われるような農産物、食料が多く出回ることが予想される。

## 9. 健康被害、 健康寿命の 短縮

- おかしなものを食べ健康を害す。
- 昔から培われてきた日本の食文化 和食とは違う「食の欧米化・国際化」が日本人の健康を損ねているというお話しは、次の高橋先生に委ねます。
- 自給率の低下で自ら作ることが出来なくなり、外国に食の安全、安保も委ねなければならないようでは日本人の健康寿命もどんどん短くなることが予想されます。

## 10. 農村コミュニティの崩壊

- これまで年金農業であっても農村社会の基幹産業であった農業が無くなれば農村コミュニティも崩壊してしまいます。
- 農村コミュニティが崩壊すれば、これまでの農村のインフラ、文化、そして環境の維持・持続は出来なくなり、山は荒れ、川は乱れ、そして平野部も大きな災害に襲われることは必至です。

# そして未来

1

これまで話してきたことは、今の日本、日本農業が抱えている課題ですが、残念ながらこれら現状をしっかりと伝えることすらしていない日本の農業政策、日本の食糧政策に未来は託せません。

2

これからの農業は、  
自ら作り自ら調理し自ら食す！このことが自らを家族、そして身の周り人たちを守ることに繋がると思っています。

3

是非、今回の話を聴いて、賛同される方は、信濃川河川敷のOasisR、そして一之貝UNEHAUSへ来て一緒に農業してみませんか？  
そこには新たな出会い、発見がありそして未来があると思います。



# ノウフクで新しいコミュニティの創生

UNEは、これまで農福連携を推進してきました。

誰もが直ぐにそして大勢でやれる農作業しごと：ノウフクジョブを用意しています。

ノウフクジョブは、みんなと一緒に、やり甲斐、生き甲斐、感謝を感じながらやるしごとです。

ノウフクジョブは、安全、品質、効率性を追求すると共に、「みんなと一緒に、楽しくやる」ことも大切にしています。

効率性の指標としてノウフクレートなるものを作り、そのレートを向上させるためみんなと一緒に頑張っています。







ご清聴ありがとうございました！